

グリーンデータブックあいち 2017 維管束植物編

瀧崎吉伸・村松正雄・畑佐武司・芹沢俊介

維管束植物のグリーンデータブックは、県内分布表をかなり細かく区分した関係でその中に分布情報以外の情報を入れることができないため、全種リストと県内分布表を分離して作成することにした。全種リストと県内分布表は、それぞれ以下のような方針で作成した。愛知県に生育する維管束植物の概況はレッドデータブックに記述されているので、それを参照されたい。

1. 愛知県維管束植物全種リスト

科の配列は、シダ植物については最近発行された「日本産シダ植物標準図鑑」(海老原 2016, 2017) との関係を検討し、とりあえず Christenhusz et al. (2011)に従った。しかしこの分類系は、どう見ても科を細分しすぎている。側系統群も自然分類群であるという認識に立って、一部の細分しすぎと思われる科をより大きな科に繰り込んで整理する必要がある。種子植物は原則として APG III 分類系に従ったが、最近の研究や決定をもとに一部修正を加えた。

各科内の種の配列は、学名のアルファベット順とした。

学名は各種文献や資料をもとに最も適切と判断されたものを使用したが、一部十分に検討できていないものもある。まだ正式に記載されていない学名、組み合わせが発表されていない学名については、*を付すか、著者名を示さずに使用した。

例 ミヤマトウゲシバ *Huperzia montana* Seriz.*

ダントイヌワラビ *Athyrium imbricatum* H.Christ f. *viride* (Sa.Kurata)

愛知県に生育している全ての個体群が移入由来（国内由来を含む）と判断されるものは、和名の前に*をつけて示した。栽培植物は原則としてリストから除外したが、スギ、ヒノキなど山野に広範に植栽されている一部の種は収録した。栽培起源であるが逸出して野生状態になっているものは、今後の利用を考慮し、逸出かどうかやや微妙なものも含めて収録した。国、県のレッドリスト/レッドデータブック掲載種と指定移入種については、その旨を表示した。

種の同定は、帰化植物およびそれに近縁な在来種は瀧崎、ヤナギ科とネコノメソウ属は村松、カヤツリグサ科は主として畑佐が担当した。それ以外のものは主として芹沢が担当したが、標本を振り分けるためにとりあえず同定しただけのものもあり、一部やや不確実なものが含まれている。特にヤブマオ類やタケ・ササ類はとりあえずざっと整理したにすぎず、今

回判断を保留した標本も相当数残されている。今後詳細な再検討を行って、種名を確定させていく必要がある。

本リストに掲載されている種および種内分類群の数は、表1にまとめて示した。

表1 愛知県産維管束植物種類数

	科	種	亜種	変種	品種	園芸 品種	雑種 ¹⁾	計	移入種 ²⁾
小葉植物	3	19	0	1	0	0	2	22	2
大葉シダ植物	27	285	2	14	10	2	107	420	10
裸子植物	6	30	0	3	1	0	1	35	14
原始被子植物	11	55	0	4	2	0	3	64	15
単子葉類	38	802	7	66	37	7	32	951	227
真正双子葉類	130	1899	16	148	215	3	97	2378	717
全維管束植物	215	3090	25	236	265	12	242	3870	985

1) 種内分類群間の雑種はここに含めた。

2) 内数である。